



昭和60年度兵庫県社会人リーグ成績表

Table showing league results for the 1985 Hyogo Prefecture Adult Soccer League. Columns include team names (e.g., 神戸FC, 三菱重工), scores, and final standings (順位).

昭和60年度神戸市社会人リーグ試合結果

4月21日~11月24日

Table for Division 1 (11 teams) of the 1985 Kobe Adult Soccer League, showing match results and final rankings.

Table for Division 2 (A) (10 teams) of the 1985 Kobe Adult Soccer League, showing match results and final rankings.

Table for Division 2 (B) (10 teams) of the 1985 Kobe Adult Soccer League, showing match results and final rankings.

社会人委員会からのお願い

- List of requests from the Adult Soccer League Committee, including rules for match cancellations, uniform use, and stadium conduct.

Text detailing the requests from the committee, emphasizing safety and fair play in the use of public grounds.

ワールドカップ'86 組み合わせ決まる??

Article discussing the preliminary groupings for the 1986 World Cup, listing teams in various groups (A through F) and their respective venues.

3部(D) 9チーム

Table for Division 3 (D) (9 teams), showing match results and final rankings.

3部(E) 9チーム

Table for Division 3 (E) (9 teams), showing match results and final rankings.

3部(F) 9チーム

Table for Division 3 (F) (9 teams), showing match results and final rankings.

特設 9チーム

Table for the Special Division (9 teams), showing match results and final rankings.

日本サッカーにルネサンスは起こるか? (21)

違いを認めぬムラ社会

お互いに差を認識し合って共存共栄してゆこうというのが、やはり成熟した社会で、日本人の致命的欠点は、(その) 違いのわからないところにある。

——— 深田祐介

欧米人はそれを不思議がる。彼らだって、一方では「沈黙は金」と言ったりするし、社交上手で陰の根回しも巧妙である。本当はさも執念深さも日本人以上なのだが、とにかく自他の関係処理技術が洗練されており、ヨーロッパの誇りは理性主義でディスカッションを重んずる伝統があるので、「十人よれば顔や性格が違うように、意見が違うのは当然。立ち場も意見も違うものが、妥協点を見出すか、よい方向に進むために話し合うのがディスカッションじゃないか。違うからこそ話し合うのがあって、同じなら何も話し合う必要などない。

好き嫌いや感情は別問題だし、意見が違うからといって、何もいみが合うことはない。お互いに徹底的に言い分を出し合って、どうしても折り合えなかったら、冷静に引き下ろせばいい。日本人ももっと意見を出して大いに喋るべきだ」といふ。

「違つて当たり前」と、慌てず騒がずカットならず、「何も同じにならなくていいから、お互いに歩みよる努力をしようじゃないか」というのは、まさに大人のいき方である。そこへいくと、国民性とはいえず、他人が自分と違うことに我慢できず、ギクシャクするか、悩むか、憤り、同じになるように他人の足を引張るか、さもなくば自分を抑えて違いを消すかしないか、まとまることのできない我々は幼稚である。

こうした相違は、彼等のサッカーにおけるプレーぶりの中にも、指導者と選手との、また選手同士の人間関係にも簡単に見つかる。違いを認めぬ頭ごなしの統制管理教育は、選手を均一化し小粒にしてしまう。日本の指導者も選手も、お互いにもっと大人になって、彼らのように、自分と違う他の良さを認め寛容に受け入れて、個性を、多様性を積極的に生かす方向に進むべきである。

それが板についたとき、選手の自我や個性は今よりも一段と発達をとげ、しっかり自立した選手たちの自由な自己主張、鮮烈な自己表現がゲームでさかんに見られるようになるだろう。

サッカーは大人にならないと完成できないスポーツ。プレーヤーは精神的に成熟して、はじめて自分の能力を百パーセント発揮するようになる。

——— ミルク監督

スポーツの世界では上には上があって、上を望めばキリがない。とくにサッカーはその感が深い。これは決して身びいきではない。理由は、サッカーは単純なスポーツだが、長時間広いグラウンドで監督の指令がきかず、手を使わぬという制限以外は自由にプレーできて、しかもボールと敵味方22名という大勢の組み合わせでゲームが進行するために、取り得るケースが千変万化、その数は無限で、そのため選手はあらゆるケースに対応できる能力を要求されるからである。これはバスケットやラグビーと比較すれば一目瞭然である。しかし万能の良法があるわけではなく、多種多様なケースは到底学習しつくせるものではない。そこで、あらゆるケースに対応できるものは何かと考えると、結局、選手それぞれの、サッカーの理解度と経験、センス、イマジネーションと創造力。くらいいかなさそうに思う。

そういうスポーツなので、チーム構成では、プレーだけでなく人間関係や精神面も巧くまとめるために、ベテランが数人は必要である。若手でも、年令やレベルの低いうちは技術戦術的能力だけでもいけるけれども、レベルが高くなるにつれて次第に、自立度の高い精神的に成熟した、いわゆる大人である選手が望まれるようになる。

過去のワールドカップでも、優勝チームにはいかにも大人といった風格を備え、落ち着いた雰囲気や、貫禄とか人間性が必ず何人かいて、若い選手たちの活躍を有形無形に支援していたことが想い出される。サッカーは人間関係のゲームであるだけに、トータルな人間性や、貫禄とか人間の大きさとといったものが結構ものをいう、きわめて人間くさいスポーツなのである。

過去にもあった自立創造のサッカー

その点、世界の風潮とはいえず、今の選手たちの幼い傾向は残念である。昔の一流選手はもっと大人だった。戦争のために検校で花を咲かすことができなかった故岩谷俊夫氏などの名選手たちは、当時のことでクラシック・スタイルではあったが、それなりに個性的で創意工夫を噛み合わせたサッカーを展開していた。その昔、ベルリンで強剛スウェーデンを破って欧州人を瞠目させた故川本泰三氏をはじめとする代表チームの面々もそうだったにちがいない。

「自立創造の自己表現だの、アイディア豊富で自由奔放なサッカーをやろう、なんて言っていたって、欧米人だからできるので、日本人には無理だ」と反対の声が高いけれども、彼らの活躍は、我々にも実現の可能性が充分あることを示唆している。今の人々から見ると、当時そうした選手が育ったことが不思議かも知れないが、徳川時代に生れ明治に生きた人々の中に、民主主義下の現代人よりもはるかに本物の自由民主主義を身につけた人物が何人もいたのと同じことで、最大の要因は、彼らが独立独歩、少々の管理にははげぬ一國一城の主たちだったことであらう。

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏というが……。



少年サッカーは一見、創造的に見えるのだが……。 (59年度市少年リーグ決勝より)

少年時代を恵まれた環境で過した選手たちがいたことも、ぜひ書きとめておきたい。その筆頭と言うべき戦前の神戸一中は、現在の灘高に匹敵する全国屈指の進学校だったが、当時絶対多数だった指導、教師がどなりまくる「走れ、蹴れ、当れ」のサッカーとは完全に異なる、選手たちがそれぞれ自主的に判断工夫し、ショートパスを多用して戦うきわめてモダンなサッカーで全国制覇を続け、日本を背負って立つ名選手が当然のごとく輩出した。

世間の風潮も今みたいな子供中心か、さもなくば金力かといったものではなかった。旧制中学(今の中学、高校)は軍団主義で、普通の教師でさえ生徒やたらに殴る習慣があった、やけにきびしく管理されたけれども、中学を卒業して旧制高校や大学予科(今の大学教養課程)に進むと、一転して自由な雰囲気が開けた。

教師も世界も少年たちを一人前の大人として扱い、本人もつとめて个性的に自立して大人らしく行動しようと思掛けたものである。いま振り返ると、当時のそうした大人志向はとても良い結果をもたらしていたように思う。

現代の、大学入学までエンエンと知識の詰めこみや受験技術修業が続く中で、反抗、非行に走るか、アルバイトで稼ぐことが自立で、生理的に年をとって成人式をすませることが大人になることだ、としか思っていない少年たちを見ると、昔の人よりも能力があるだけに惜しい気がする。自発的に自立するように、周りから皆で仕向けた旧制教育のよい面を、何かとサッカー教育の中だけでも取り入れたいものだと考える今日この頃である。

Advertisement for Markam & Libe/lo soccer shoes. Features a large image of a black and white soccer cleat, the brand logo, and text in Japanese and English: 'monblancの"スピード"サッカー' and '親しまれるサッカーウェア Younger'.

Advertisement for Molten soccer balls. Features an image of a Molten Tango soccer ball and text: '充実のMolten-Tango' and '株式会社 モルテン'.